

大森伝建・河島家

江戸時代（1603年～1867年）に大森で特に栄えた武家の一つに数えられる河島家は、石見銀山の鉱夫の監督を担当する役人でした。この地方で幕府の命を奉じた奉行に召し抱えられた河島家は、1610年から1867年の幕末までこの地位に就きました。1800年に大森の大部分が火事で焼失した直後に建てられた広大な邸宅は、河島家の影響力と富を示しています。1825年に現在の外観になるまでの間に、蔵や別棟が増築されました。現在一般に公開されているこの邸宅は、美術品、食器、調理器具その他の品々が飾られており、およそ2世紀前の富裕な一家の暮らしぶりを伝えています。邸宅の正面に立つと、入口が二つあることがわかります。左側の小さな入口は住人用で、右側の大きな扉は二畳の部屋につながっており、この部屋は小さな庭に面しており、奉行や地元の年寄など、重要な来客を迎える際にしか大きな扉が開かれることはありませんでした。庭に向かう縁側に座っていると、かつてここで交わされた厳粛な会話を想像できるでしょう。